

安全データシート

改訂日 2025/06/26

1. 製品及び会社情報

製品名 : K・A・C クリーン
 会社名 : 株式会社ケー・エー・シー
 住所 : 京都府京都市中京区西ノ京西月光町 40 番地
 担当部門 : アニマルサイエンス西日本事業部資材グループ
 電話番号 : 075-801-9311
 FAX 番号 : 075-801-7688

製造元

会社名 : 日本ケミコート化成株式会社
 住所 : 京都府乙訓郡大山崎町鏡田 20-33
 担当部門 : 本社工場製造部
 電話番号 : 075-957-1616
 FAX 番号 : 075-957-4331

2. 危険有毒性の要約

GHS 分類：

健康に対する有害性

皮膚腐食性・刺激性 : 区分 1
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分 1
 特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） : 区分 1（呼吸器系）
 特定標的臓器毒性（反復ばく露） : 区分 2（肝臓、胸腺）
 ※記載の無いものは分類対象外又は分類できない。

注意喚起語 : 危険

GHS のラベル要素

シンボル



危険有害性情報

- 重篤な皮膚の薬傷、眼の損傷
- 重篤な眼の損傷
- 呼吸器系の障害
- 長期にわたる、または反復ばく露による肝臓及び胸腺の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

- 取扱い後は手をよく洗うこと。
- 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ミストを吸入しないこと。

【救急処置】

- 皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。すぐに水で数分間洗うこと。
汚染した衣類を再使用する場合は洗濯すること。
- 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- 目に入った場合：すぐに水で数分洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
すぐに救急の医療処置を受けること。
- ばく露またはばく露の懸念がある場合：すぐに救急の医療処置を受けること。
気分が悪い時は、診察を受けること。

【保管】

- 施錠して保管すること。

【廃棄】

- 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し廃棄すること。

3. 組成／成分情報

化学物質・混合物の区分：混合物

成分名／化学名	含有量 wt%	CAS.NO.	化審 No.	安全衛生法 No. 通知、ラベル表示対象物	PRTR 法 No. 第 1 種、第 2 種
精製水	65.0	7732-18-5	—	非該当	非該当
クエン酸（一水和物）	19.0	5949-29-1	2-1318	非該当	非該当
スルファミン酸	11.0	5329-14-6	(1)-402	非該当（令和 8 年 4 月より該当）	非該当
グリコール酸 （70%水溶液）	5.0	79-14-1	(2)-1346	該当	非該当

4. 応急措置

皮膚に付いた場合

皮膚を石鹼で洗うこと。

皮膚刺激、発疹が生じた時は、医師の処置を受けること。

目に入った場合

水で 15 分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

目刺激が持続する時は、医師の治療を受けること。

吸入した場合

空気の良い場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の治療を受けること。

飲み込んだ場合

直ちに口をすすぎ、うがいをすること。

気分が悪い時、または体に異常を感じる時は、医師の治療を受けること。

応急処置をする者の保護

救助者が有害物質に触れないよう手袋や保護ゴーグル、マスクなどの保護具を着用すること。

汚染された衣類や保護具を取り除くこと。

5. 火災時の措置

消火剤

散水、噴霧水、泡消火器、二酸化炭素、粉末消火薬剤

使ってはならない消火剤

棒状放水

特有の危険有害性

火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動すること。

移動可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却すること。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却すること。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止すること。

風上から消火活動を行うこと。

環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止すること。

6. 漏出時の処置

人体に対する注意事項

漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止すること。

漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用すること。

風上から作業し、蒸気、ガスなどを吸入しないこと。

密閉された場所に立入る時は、事前に換気すること。

環境に対する注意事項

河川、下水道、土壌に排出されないように注意すること。

回収、中和

多量に漏出した場合：土のう等で拡散を防止し、凝固剤などで措置をしてから回収すること。

少量漏出の場合：乾燥砂、ウエス等に吸収させて回収すること。

必要があれば消石灰、ソーダ灰などで中和すること。

封じ込め及び浄化の方法

危険でなければ漏れを止めること。

二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

保護具（手袋、保護マスク、保護メガネ、エプロン等）を着用すること。

ミスト、蒸気、ガスの発生を防止すること。

局所排気、全体換気

必要に応じて、局所排気又は全体換気を行うこと。

安全取扱注意事項

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取り扱いをしないこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

容器を密封しておくこと。

保護具（手袋、保護マスク、保護メガネ、エプロン等）を着用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避

強アルカリ性物質、高温との接触を避けること。

保管

保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉し冷暗所で保管すること。

施錠して保管すること。

混触危険物質、食料、飼料から離して保管すること。

混触危険物質

強酸化剤、強アルカリ性物質、金属

容器包装材料

ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）

設定されていない。

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

密閉化した設備では局所排気装置を設けること。

保護具

呼吸器の保護具：必要に応じて防毒マスク（酸性ガス用）を着用すること。

手の保護具：耐酸性手袋を着用すること。

目の保護具：保護眼鏡、保護面を着用すること。

皮膚及び身体の保護具：長袖作業衣を着用すること。

衛生対策

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	：無色透明液体
臭気	：わずかな特異臭
沸点	：データなし
蒸気圧	：データなし
pH	：0.3
比重	：データなし
引火点	：データなし
発火点	：データなし
溶解度	：データなし
蒸気圧密度	：データなし
蒸発速度	：データなし
分解温度	：データなし
粘度	：データなし

10. 安定性及び反応性

安定性：法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。

危険有害反応可能性：強酸化剤、強アルカリ性物質と接触すると激しく反応することがある。

塩素、発煙硫酸、アルミニウム、亜鉛、スズと激しく反応して、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件：日光、高熱。

混触危険物質：強酸化剤、アルカリ性物質、金属。

有害な分解生成物：一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、硫酸水素アンモニウム。

11. 有毒性情報

急性毒性 経口：（製品のデータ）区分外

スルファミン酸：LD50 2000mg/kg、濃度＝11.0%

グリコール酸：LD50 2040mg/kg、濃度＝5.0%

計算式より得られた毒性推定値 5000 より大きいため、区分外とした。

経皮：知見なし [分類できない]

吸入：（蒸気） 知見なし [分類できない]

皮膚腐食性・刺激性：（製品のデータ）区分 1

皮膚腐食性・刺激性が区分 2 の成分を合計 10%以上含み、pH2 以下の酸であるため区分 1 とした。

スルファミン酸：区分 2、濃度＝11.0%

目に対する重篤な損傷・眼刺激性：（製品のデータ）区分 1

眼刺激性が区分 1 の成分を合計 5%以上含むため区分 1 とした。

クエン酸：区分 1、濃度＝19.0%

呼吸器感作性：知見なし [分類できない]

皮膚感作性：知見なし [分類できない]

生殖細胞変異原性：知見なし [分類できない]

発がん性：知見なし「分類できない」

生殖毒性：知見なし「分類できない」

特定標的臓器・単回暴露：（製品のデータ）区分 1

特定標的臓器毒性が区分 1 の成分含有率が成分を合計 1.0%以上含むため区分 1 とした。

グリコール酸：区分 1、濃度＝5.0%

特定標的臓器・反復暴露：（製品のデータ）区分 2

特定標的臓器毒性が区分 2 の成分含有率が成分を合計 1.0%以上含むため区分 1 とした。

グリコール酸：区分 2、濃度＝5.0%

誤えん有害性：知見なし [分類できない]

1 2. 環境影響情報

水生環境急性毒性：知見なし [分類できない]

水生環境慢性毒性：知見なし [分類できない]

オゾン層への有害性：知見なし [分類できない]

1 3. 環境廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理すること。

廃棄物を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託すること。

汚染容器、包装：容器は清浄にしてリサイクルするか関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

陸上輸送：消防法、労災安全衛生法、毒劇物法等に該当する場合、法令に従って輸送すること。

内陸水路輸送：船舶安全法の定めに従うこと。

海上輸送：船舶安全法の定めに従うこと。

航空輸送：航空法の定めに従うこと。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物（グリコール酸・法第 57 条、施行令第 18 条） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（スルファミン酸（令和 8 年 4 月より該当）・法第 57 条、施行令第 18 条） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（グリコール酸・法第 57 条第 2 項、施行令第 18 条第 2 項） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（スルファミン酸（令和 8 年 4 月より該当）・法第 57 条第 2 項、施行令第 18 条第 2 項）
毒物及び劇物取締法	劇物：（グリコール酸・指定政令第 2 条） ※配合量がグリコール酸として 3.6%未満の為、該当しない
船舶安全法	腐食性物質（スルファミン酸・規則第 2、3 条危険物告示別表第 1） 腐食性物質（グリコール酸・規則第 3 条危険物告示別表第 1）
航空法	腐食性物質（スルファミン酸・施行規則第 194 条危険物告示別表第 1） 腐食性物質（グリコール酸・施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）
海洋汚染防止法	有害液体物質（グリコール酸・Z 類同等物質）

16. その他の情報（引用文献等）

化学製品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）改訂 8 版 化学工業日報社

製品安全データシート「クエン酸一水和物」昭和化学株式会社

製品安全データシート「スルファミン酸」サンケミカル株式会社

製品安全データシート「70%グリコール酸」三英化学株式会社

（注意）このデータシート（SDS）は製品に関する情報提供を目的としたものであり、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保障するものではありません。

また、SDS 中の注意事項は通常の実用を前提としたものです。特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。